

「偃師商城発見三十周年記念国際学術シンポジウム」参加報告

藪 敏 裕[※] 劉 海 宇[※]

中国社会科学院考古研究所・中国殷商文化学会・河南省文物局・偃師市政府が共同主催する「偃師商城発見三十周年記念国際学術シンポジウム」が、2013年10月28日より中国河南省偃師市で開催された。中国各地の考古関係者のほか、日本・アメリカ等からの学者をも含めて、100人余りが集まり、発表された学術論文60篇余りにのぼった¹⁾。周知のように、商代最初の都城である偃師商城の宮城内では、石を積んで造った大規模な苑池が検出されている。中国古代苑池に関する最新の発掘情報や研究成果を把握するため、平泉文化研究センター藪敏裕と劉海宇2名はこのシンポジウムに参加し、連名で「商代出土文字資料中所見的池苑及水澤礼儀」という口頭発表を行った²⁾。本稿では、今回のシンポジウムで発表された新出の中国古代苑池の発掘情報等について述べる。



屋内で保護展示された偃師商城の苑池（筆者撮影）



偃師商城の苑池の護岸と水路（筆者撮影）

一 河南省偃師二里头遺跡宮殿区の「巨型坑」

中国社会科学院考古研究所は、2010年から2011年にかけて二里头遺跡宮殿区の東北部において、東西の長さ約66m・南北の幅約33mにわたるほぼ長方形の「巨型坑（巨大な穴）」を確認した。報告によると、この「巨型坑」の東岸は宮城の東の城壁まで3～5m、北岸は北の城壁まで約13m程

※ 岩手大学平泉文化センター

1) 許宏「紀念偃師商城發現30周年國際學術研討會在豫舉行」、《中國文物報》2013年11月8日。

2) 劉海宇・藪敏裕「商代出土文字資料中所見的池苑及水澤禮

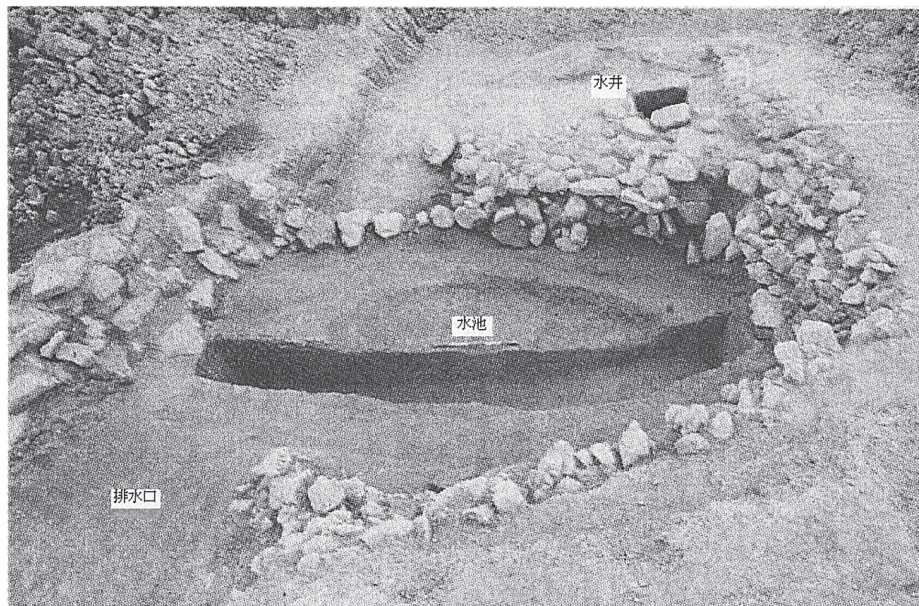
儀」、《夏商都邑考古暨紀念偃師商城發現30周年國際學術研討會論文・提要集》2013年10月、162-164頁。

度の位置にあり、総面積は2200㎡を超え、深さは4～4.6m、「巨型坑」の縁は内側の12mまで傾斜が緩く、その先になると傾斜が急になるとされる。

「巨型坑」の中に二里头文化第一期から第四期まで（約3900年前から3500年前）の継続的な堆積物が確認されている³⁾。坑内の堆積物は二里头文化第二期のものが主で、厚さ1～3m程度、祭祀遺構・住居及び竈の遺跡等が検出されている。幾層もの堆積物の中に植物の根や葉が腐敗した痕跡、沈殿したシルト質の堆積の痕跡、みさびの痕跡などが確認されており、この池が長期間にわたり水を湛えていたことが分かる。この「巨型坑」について、発掘者は大型建築をつくるための土の掘削により作られた穴と推定しており、その形成時期は遅くとも二里头文化第二期になるとされる⁴⁾。

二 陝西省神木石峁遺跡宮殿区の苑池風（？）遺構

陝西省考古研究院孫周勇氏・邵晶両氏は、「神木石峁遺址の考古新発見及初步認識」と題し2012年～2013年にかけての神木石峁遺址発掘成果について報告した。石峁城址の中心部には石で築かれた台地状の「皇城台」の宮殿の基壇及びその前に苑池風の遺構が確認されているという。また、この遺構からはワニの鱗板骨等が数多く検出されているという。



浙江省良渚官井頭遺跡の石組みの苑池跡
（『中国文物報』2013年8月30日第8面）

神木石峁遺址は、1976年に発見された龍山文化晩期（約4300年前から4000年前まで）の遺跡で、面積が400万㎡に達する中国新石器時代晩期最大の城址であり、多数の玉器等の遺物が確認されている⁵⁾。

3) 二里头文化の年代範囲はBC1900年からBC1500年までとされ、さらに第一期から第四期まで分期されている。中国社会科学院考古研究所編著『中国考古学・夏商卷』第二章第二節二里头文化的分期与年代（中国社会科学出版社2003年、69-81頁）を参照。

4) 許宏・陳国梁「二里头遺址宮殿区2010-2011年度勘探与発掘新収獲」、『中国文物報』2011年11月4日。

5) 陝西省考古研究院「陝西神木県石峁遺址」、『考古』2013年7期、15-24頁。

三 浙江省良渚官井頭遺跡の苑池跡⁶⁾

浙江省文物考古研究所の報告では、2012年3月から2013年7月にかけて行った浙江省良渚官井頭遺跡の発掘調査により、良渚文化中期から晩期（約4500年前から4000年前）⁷⁾にかけての大型石組みの苑池跡が発見されている。

良渚文化における大型石組みの苑池の発見は初めてである。苑池跡は官井頭遺跡の西部に位置し、西南から東北へ楕円形を呈する石組みの池を中心に、水源となる井戸及び石組みの排水溝からなっている。池の護岸は石で築かれており、池底には石の敷かれた痕跡はない。池の2mの北側には石で築かれた壁面を持つ井戸が検出されており、池との間には石が敷かれている。池は東西3.6m、南北最大7m、深さ1.5mで、その西南部にある石組みの排水溝とつながっている。この排水溝は幅約2m、残長18mとされている。遺跡は全体に東北から西南へ緩く傾斜していることから、井戸から池に水を溜めて、さらに排水溝によって西南の方角へ流されていたと推測されている。

四 隋唐洛陽城九洲池の発掘調査及び整備保存

洛陽市では、洛陽市玻璃工場一帯のほぼ60haの土地にニュータウンの開発構想が打ち出されている。関係部門は、2013年7月よりここに立地する隋唐洛陽城の九洲池遺跡を対象として、発掘調査を行ってきた。洛陽市の「九洲池遺跡整備と保存計画」によれば、総面積10haの公園を作り、その中に考古調査に基づく池と三島を中心とする隋唐時代の皇家苑圃を復元する予定であり、さらに隋唐時代の建築物をも一部再現するとのことである⁸⁾。

おわりに

現在の中国では高度経済成長に伴う急激な都市開発が行われているが、それぞれ遺跡の詳細な発掘報告を早急に発表すること、及び遺跡の保護・管理にも積極的に取り組むこと、の2点を特に望みたい。

6) 趙曄「浙江省良渚官井頭遺址発掘取得重要成果」、『中国文物報』2013年8月30日。

7) 良渚文化中期から晩期の年代範囲はBC2500からBC2000年までとされている。中国社会科学院考古研究所編著『中国考古学・新石器時代巻』第七章第二節長江三角

州良渚文化（中国社会科学出版社2003年、678-682頁）を参照。

8) 張銳鑫「重塑隋唐九洲池、打造三產增長極」、『洛陽日報』2013年9月23日。